

刊夕... 行發日一十月八... 刊休日翌日祭曜日

綠蔭小記 島田忠夫

愚庵遺墨の寫眞... 書きに本紙に寄せて、愚庵遺墨の寫眞に收め置く計...

和尙のこの寫眞は頗る珍品である。一は明治五年八月の攝影。一は明治十四年...

外に平町にある筆蹟及び書翰類の撮影のことが、予の目前の仕事である。これにはかなりの費用も要する...

天田愚庵和尙の研究は平町を中心とした予の研究が最も主き置かるに至つた。これ偏へに平町諸氏の援助の賜である。

相馬御風氏の愚庵研究の著書など、元より取るに足るに誠心青年の予等顔色もなし...

○神意に背きては一事を爲すこと能はず (ハニニバツ)

○上帝は無窮より無窮に擴がる (アリストートル)

○罪を天に獲る時は禱る處なし (孔子)

昔者は本縣會津の人、最も得意とするもの花鳥畫は、まさに神韻を生じ、瀟々...

既に高齡、昔者は再び當地方に來遊あるかどうかを知らず。同好者あつて高作を求めらるるには好期と思ふ。因に云ふ、申込は高久病院にせられんことを。

○涼味 某日、野出先生に侍して

夏 日 吟 菊 枝 (一)

瀬越えんと淺處を求めてゆく人の面輪かくりて 離りゆく人遠みかも河原の蘆葉さやきて心さびし

せせらぎを聞き行ゆる川邊の蘆の尖り葉鳴り止まぬかも

蘆の葉のそよぎを聞けば爲師の眞間の故事しぬびやますも

野出先生は本年既に老翁八十五、未だ元氣かくしやたるものあつて、盛夏の日を一段と精進するさま

蕪城の某氏別荘に遊ぶ。別荘の庭前に丹後、ゆらゆら、菱の實を浮べてここに涼味あり。

席上、茶を供されて涼味あり。主自慢の文晁の大幅、江名濱の海景を描けるはおもしろい。ここに萬斛の涼味あふれて妙。

山彦 (童謡詩) 山口正夫

兵隊ごっこ やるべいと みんなで隊長ききました

市原病院 院長 市原卯太郎 平町町電一四

御中元には三井の品を 八月十二日より七日間 御贈答御用仕者に格安品豊富に

三井呉服店 御中元の御用命は!!! 平町 三井呉服店

木村病院 産科 婦人科 院長 木村寅次郎 平新川町十九

川井内科診療所 川井安重子 女醫士

波野醫院 診察時間 午前七時より 午後八時より

安賣 舶來生地メニスカス近眼玉 一組 一圓拾錢

精幸堂時計店 才小路キチ自動車店の向

井阪醫院 婦人科 午後住宅診 午後往診

お醤油は ヤマフル 味噌醤油 たひら正宗 謹師食品

山崎合名會社 福島縣 平町 電話(本局)二七番

吉田眼科病院 平町紺屋町

阿部石炭商店 電話一三三七番



元禄名妓傳 十洲三島鶴乾坤 四海五湖龍世界

たことを申し上げてあるが、せん玉且御免下さい 彌左衛門が来た仔細を申上り

